



【地域の概況と課題】

- 東御市は、平成16年に東部町と北御牧村が合併して誕生した30,122人（2020年国勢調査）、都心から1.5時間の「ほどよく、田舎」の市。
- 地域活動への参加者が減少し、地区の役員のなり手・担い手が不足しており、コミュニティとのつながりの希薄化による高齢者の孤立化が深刻な課題。また、中山間地域であるため自動車がない場合には買物が難しい。

【対応方向と特徴】

- **ウエルシア薬局は自治体と連携して全国16店舗にて、「うえたん号」による移動販売を通じたコミュニティづくりに取り組んでおり、常設モニターによるオンラインサービス（薬剤師等の専門職との服薬や健康・栄養相談、オンラインカタログ等）を提供**
- 東御市では、「生涯活躍のまち」の一環として、「うえたん号」による移動販売を小学校区単位で設置される**コミュニティセンターを含む市内38か所で実施し、地域住民の買い物支援を行うとともに、買い物を通じた交流機会の創出や高齢者の見守りを実施**
- センターでは高齢者向けの教室等のイベントに合わせて**移動販売を行うことによるイベントへの参加意欲の向上や、誰もが気楽に立ち寄ることができる場所として交流の拡大**を図っている。また、「とうみレッツ号（AIデマンド交通）」により、センターを含む移動が可能

＜市民から寄せられる悩み・相談・要望等＞

- ✓ 高齢化にコロナ禍が重なり、地域活動への参加者が減ってしまい、地域における繋がりが希薄化してしまった。気軽に話せる相手もおらず、孤独感・孤立感を感じる。
- ✓ 外出や交流の機会が減ったことで、体力が落ちてしまった。要介護とならないように、健康状態をできるだけ維持したいが、移動もままならず、自分一人ではどうしたらよいか分からない。
- ✓ 標高差の大きい地域なので、自動車でないと買物などの移動が難しい。このような状況では、自動車免許を返納すべきとは分かっているが、なかなか踏み切れない。
- ✓ 既存のデマンド交通はエリア間の移動に乗り継ぎが必要だったり、時刻表による運行のため、好きな時間に利用できないといった不便さがある。

※ R5デジタル技術を活用した「生涯活躍のまち」づくりの推進に向けた調査研究事業による伴走支援の中で検討・実現

